

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 29 年 6 月 10 日
＜第 2 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第 3 回講座 「授業づくりの基礎①～学習指導案の作成から授業実践へ～」

平成 29 年 5 月 14 日（日）に、教材提示の方法や発問の仕方等、授業づくりの基礎について理解を深めることをねらいとして、第 3 回講座を行いました。今回は、教職に就くことを志す大学生に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約 300 人が参加しました。

初めに、東京教師養成塾を担当する高瀬 智子統括指導主事が、参加した大学生を対象に「養成塾を目指す皆さんへ」をテーマに、養成塾の概要について講義を行いました。次に、村上 正昭指導主事が「授業づくりの基礎①～学習指導案の作成から授業実践へ～」をテーマに、学習指導案を作成する上でのポイントや授業を構成する際に工夫をすることについて説明しました。

続いて、分科会形式で東京教師養成塾担当教授による模擬授業が行われました。

東京教師養成塾担当教授による模擬授業の様子

【国語の分科会】

小学校第 2 学年「しゃしんをつかって、せつめいしよう」の模擬授業が行われました。授業の前に学習指導案と教材分析表を用いて指導計画を作成する際のポイントとして、最初に学習指導要領及び解説を読むこと、単元の目標を踏まえて、観点ごとの評価規準を設定すること、子供たちが見通しをもって学習できるように指導計画を作成することについての説明がありました。導入部では、さげが大きくなる場面ごとの写真を活用して、児童が興味・関心をもって学習できるようにするための指導の工夫が具体的に示されました。参加した塾生や一般学生は、メモを取りながら真剣に受講していました。



－発言をする塾生－

【算数の分科会】

小学校第 4 学年「面積」の模擬授業が行われました。L 字型の複合図形の求積の方法を考えてまとめるという内容でした。全体を通して、算数の 1 時間の授業の構成や算数的活動が思考力・表現力等を高めるものであることについての説明がありました。授業の導入の部分では、提示した写真から、問いが生じるようにするための発問の工夫や児童の意欲を膨らませるために教師として心掛けることについての話がありました。塾生や学生から多くのつぶやきや意見が出た活発な模擬授業となりました。



－分類を説明する教授－

【特別支援教育の分科会】

「子供は、どうして、つまずくのか—障害のある子供の「算数」—」をテーマに二つの模擬授業が行われました。前半は、数の指導における子供のつまずきを考えながら、数の基礎概念の系統的な指導法についてでした。導入の場の設定、キューブを使う理由、集合数と順序数について演習を交えて解説が行われました。

後半では、知的障害特別支援学校小学部第 1 学年国語・算数の模擬授業が行われました。模擬授業では、集団学習のねらいや学習指導要領上の位置付け、個別学習で取り組む課題について考える機会が設けられ、参加した塾生や学生は特別支援学校の教育活動への理解を深めました。



－意見を集約する教授－

分科会終了後、塾生は「学習指導案を基にした授業実践について」をテーマに班別協議を行い、理解を深めました。平成 29 年 10 月 15 日（日）には、塾生による模擬授業を中心にした第 2 回公開講座を実施します。

【参加した学生の感想より】

- ・教師を目指す上で、授業の進め方や児童への対応の仕方など、実際の授業を行うに当たり必要になる細かな指導法を学ぶことができた。
- ・大学の授業で疑問に思っていた板書の工夫、教材研究、児童理解について新たな発見があり、実践的な学びの機会になった。自分が児童役になることで、児童側の立場に立った理解が深まった。

【塾生の感想より】

- ・指定校での研究授業の後だったので、自分の課題と照らし合わせながら受講することができた。子供の「どうして」「なぜ」を大切にし、考える面白さを味わわせる授業をつくりたい。
- ・実際に模擬授業を受けたり、解説を聞いたりすることにより、授業を行う際に、子供の表情を確認することや、活動に見通しをもたせること、成功体験をさせることが大切であると学んだ。

第4回講座「授業づくりの基礎②～単元指導計画の作成から授業実践へ～」

5月27日(土)に、単元指導計画作成の考え方や指導方法について学ぶことをねらいとして、第4回講座を行いました。

【小学校コース】「社会科・理科の授業づくりと単元指導計画作成のポイント」

社会科の講座では、初めに東京教師養成塾の担当教授が社会科の目標や学年ごとの指導内容、問題解決学習について、単元指導計画の作成のポイントに関する講義を行いました。小学校第5学年「水産業のさかんな地域」を題材に学習問題をつくる授業の演習が行われました。塾生は、学習問題に到達させるために、提示する資料の順番を決め、どのような学習活動を行うかを考え、グループ演習を行いました。

理科の講座では、担当教授が理科で学ばせたいことや単元を通した理科の授業づくりについて講義を行いました。講義では、小学校第4学年の「ものの温度と体積」を題材に1単位時間分の指導案を作成する演習が行われました。模擬導入実験が行われ、塾生は児童の意欲を高めるための事象提示の方法について学びました。

【特別支援学校コース】「特別支援学校におけるアセスメントを生かした授業づくり」

東京都立志村学園 副校長 中村 大介先生を講師に招いて、アセスメントの目的と授業づくりへの生かし方について、講義・演習を通して学びました。子供の教育的ニーズや、適切な指導及び必要な支援を考えるヒントを得るために目的に合ったアセスメントを選択する力を身に付けることの大切さについて講師の具体的でわかりやすい事例から学びました。

【塾生の感想より】

- ・社会科では、資料のもつ意味を十分に吟味し、児童の実態に合った扱い方を考慮することの大切さを学んだ。
- ・理科では、導入でどれだけ子供の興味・関心を高めることができるかがその後の展開を左右する。導入で実験を行う等の工夫を取り入れられるよう学んでいきたい。
- ・目的をもってアセスメントしたり、自分に置き換えて考えたりすることで子供たちの気持ちや実態を把握し、適切に指導ができるようにしていきたい。



—社会科で学んだことの発表—



—理科のグループ協議—



—特別支援学校コース—

【連載シリーズ コラム②】

◆ 教科の特性と学習指導案の作成 ◆

東京教師養成塾教授 牛島 隆文

東京教師養成塾生は、教師養成指定校において5月から授業実践を行っています。形成期(4月から8月)のこの時期の授業実践では、「教科等の特性の理解を基にした学習指導案の作成」を指導の重点としています。

■ 授業実践の充実のために

学習指導案は、授業者の授業の設計図であり、授業を展開していく際の進行管理表です。実践後には、児童・生徒の学習の様子や指示や発問等の指導を振り返って、成果や課題を明らかにするとともに次の授業準備に生かすようにするために重要なものです。また、学習指導案の作成を通して、教材への理解や解釈、児童・生徒理解がより深まるという面もあり、質の高い授業づくりのために学習指導案は欠かすことのできないものです。

学習指導案には、単元の目標や評価規準、指導観、指導計画と評価計画、指導上の留意事項等、学習指導の根幹に関わる大切な内容があります。学習指導案を作成する際には、「平成29年度 東京教師養成塾 授業づくりを考える」の学習指導案作成例を活用するとともに、これらの内容を踏まえ、単元の目標や系統性、児童・生徒の実態等を基に、どのような力を身に付けさせるのか、どのように学習活動を展開していくのか等を明確にして、具体的に考えることが大切です。内容の整った学習指導案を作成することは充実した授業実践並びに、児童・生徒の確かな学力の定着につながります。

■ 主体的、協働的な学びのために

学習指導案を作成する際には、教科等の特性を踏まえることが重要です。それぞれの教科等にはその教科等において達成させたいねらい(児童・生徒に身に付けさせたい力や育てたい能力、態度)があります。まさに、その達成させたいねらいが教科等の特性を表しており、それぞれの教科等におけるねらいを理解することが、特性を理解することであるといえます。

そして、その特性の理解を基に、毎時間の授業づくりを進めていきます。1時間ごとのねらいとそのねらいを達成するための学習活動や発問計画、支援計画、指導後のゴールとなる目指す児童像・生徒像等を明確にして、授業を練り上げていきます。また、学習形態の工夫や教材の作成・提示の工夫も学習効果を高める上でとても大切なことです。

児童・生徒が興味・関心と課題意識をもって、主体的な深い学びと協働的な学びを進めることができるように、それぞれの教科等の特性の理解を一層図るとともに、児童・生徒の実態に基づいた学習指導案を作成します。塾生には、今後の指定校での授業実践に向けて、実践する教科等の学習指導要領をしっかりと読み込ませ、教科等の特性への理解を深めさせるとともに、児童の笑顔があふれ、一人一人が輝き、その子らしさが発揮される授業を実践できるように指導に努めてまいります。